令和６年度栗東市山の施設あり方に関するアンケート調査報告書（概要版）

調査概要

◇調査目的
　山の施設〔自然活用総合管理棟（道の駅こんぜの里りっとう）、こんぜの里バンガロー村、森林体験交流センター（森遊館）、自然体験学習センター（森の未来館）〕の老朽化や厳しい運営の状況にあります。その為、本市では山の施設の今後のあり方に関する検討を行っており、今後の方向性を決定するための一環として、市民の皆さまからご意見を聴取するため、アンケート調査を実施致しました。

◇調査方法
アンケート形式による紙面回答及び電子回答

◇調査期間
令和６年９月～１１月末まで

◇周知方法
自治会回覧（９・１１月）、広報掲載（１０月）、市内公共施設への紙面の設置、ホームページへの掲載

◇回答件数
１，５００件（市内：１，２４４件、市外：２５３件、回答なし：３件）
（紙面回答：８４１件、電子回答：６５９件）

◇回答学区別割合（市内回答：１，２４４件の割合）
金勝：１１％、葉山東：８％、葉山東：１０％、治田：１７％、治田東：７％、
治田西：９％、大宝：１４％、大宝東：１４％、大宝西：６％、分からない：５％

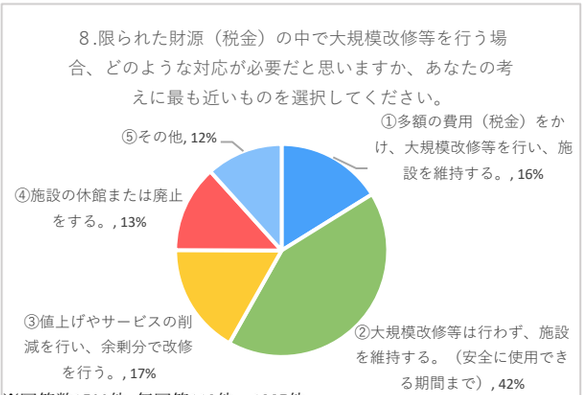
◇回答年令別割合（市内回答：１．２４３件の割合）※未回答１件
１０代：３％、２０代：２％、３０代：１５％、４０代：２１％、５０代：２２％
６０代：１７％、８０代以上：３％、答えたくない：１％

◇回答分析
回答数１，５００件を全体、市内、市外、各学区ごとに集計を行い、別紙にて取りまとめ。
今回、取りまとめの内主要な項目を抽出し、アンケートから読み取れる施設の方向性を概要として作成。

主な調査結果（設問8. 9. 10の抜粋）

8.限られた財源（税金）の中で大規模改修等を行う場合、どのような対応が必要だと思いますか、あなたの考えに最も近いものを選択してください。（全体結果）

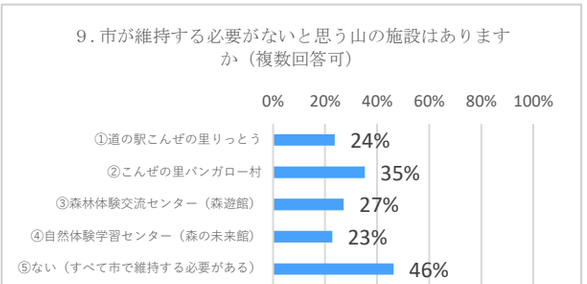
①多額の費用（税金）をかけ、大規模改修等を行い、施設を維持する。	224件	16%
②大規模改修等は行わず、施設を維持する。（安全に使用できる期間まで）	583件	42%
③値上げやサービスの削減を行い、余剰分で改修を行う。	234件	17%
④施設の休館または廃止をする。	184件	13%
⑤その他	162件	12%
合計	1387件	



※回答数1500件-無回答113件＝1387件

9.市が維持する必要がないと思う山の施設はありますか（複数回答）（全体結果）

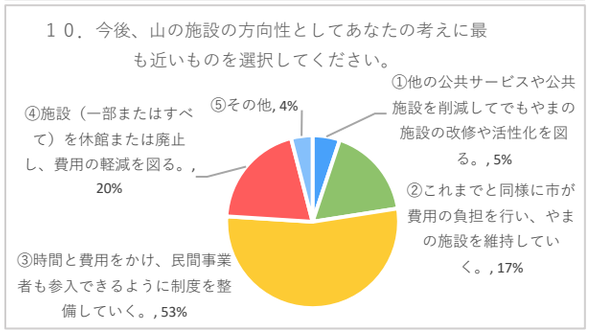
①道の駅こんぜの里りっとう	293件	24%
②こんぜの里バンガロー村	436件	35%
③森林体験交流センター（森遊館）	336件	27%
④自然体験学習センター（森の未来館）	281件	23%
⑤ない（すべて市で維持する必要がある）	573件	46%
母数	1236件	



※回答数1500件-無回答264件＝1236件（母数）

１０．今後、山の施設の方向性としてあなたの考えに最も近いものを選択してください（全体結果）

①他の公共サービスや公共施設を削減してでもやまの施設の改修や活性化を図る。	70件	5%
②これまでと同様に市が費用の負担を行い、やまの施設を維持していく。	238件	17%
③時間と費用をかけ、民間事業者も参入できるように制度を整備していく。	731件	53%
④施設（一部またはすべて）を休館または廃止し、費用の軽減を図る。	273件	20%
⑤その他	55件	4%
合計	1367件	



※回答数1500件-無回答133件＝1367件

市民アンケート調査報告書のまとめ

・本アンケートでは、市内の方８割、市外の方２割から回答を頂き、年代も５０代が多く、次いで４０代、６０代とピラミッド型に回答を頂きました。各学区からの回答も一定の回答数に差はあるものの満遍なく回答を頂き、全体結果と市内結果を比較しても大きな差は見受けられなかった。
　各施設の状況として、「道の駅こんぜの里りっとう」は認知度、利用度、期待度が最も高い結果であった。次いで、認知度及び期待度はバンガロー村、森林体験交流センター、自然体験学習センターの順に多く、利用度は３施設ともほぼ同じ結果となった。
（認知度は問3、利用度は問4. 5. 6、期待度は問7の結果を参考。）

・大規模改修を前提とした設問では大規模改修は行わず、施設を安全に使用出来るまでの維持するとの回答が約４割であり、費用をかけるや値上げ、サービスの削減による対応で改修を行う回答も約２割程度あったことから、施設は維持する方向の結果が多くなった。

・市が維持する必要がない施設についての設問では、市ですべて維持する必要があるとの回答が約５割と最も多い結果となったが、バンガロー村については市で維持する必要ないとの回答が約４割となり、他の施設より高い結果であることから民間事業者参入の足掛かりとして継続的な検討が必要。

・施設の今後の方向性についての設問では、時間と費用をかけて民間事業者の参入できる制度を整備するとの約５割の回答があり、自由記述においても民間事業者の参入を望む声が多いことから、各施設の機能や目的を精査したうえで、民間事業者が参入できる方向性で検討が必要。

・自由記述の意見では、民間事業者の参入やクラウドファンディングの活用の意見を多く頂き、施設自体の広報やマーケティング強化の意見等を頂いた。一方で改修費等の負担状況により施設の統廃合や施設の休館廃止についての意見も頂いた。

・本アンケートの結果を受け、施設存続の希望は多い状況であり、存続するためには民間事業者の参入や広報、マーケティング強化等の民間事業者との協力が必要であることが読み取れる。一方で維持や改修費等多額の費用が掛かる場合、施設の統廃合や休館廃止の選択を行う必要があることも読み取れる。
　そのため、施設の方向性については、民間事業者の参入の可能性がある施設は、民間の参入できるよう制度の継続的な検討を行いつつ、改修費等を勘案しながら指定管理制度等の活用による継続または施設の休館廃止について検討を続け、最終的な方向性を示す。

主な意見（全体意見のまとめ）

****1. 民間参入と財源確保****
施設運営の効率化と財源確保のために、民間事業者の参入を促進するべきだという意見がありました。具体的には、カーボンオフセットクレジットの販売やクラウドファンディングの活用、一部の施設の売店や飲食店に対してテナント料を徴収し、維持管理費に充てる等の意見がありました。また、公共サービス全体の見直しにより、市の負担を減らす意見もありました。

****2. 施設の運営と利用促進****
施設の利用を促進するために、施設自体のアピールや利用者ニーズの調査の意見がありました。具体的には、アンケートを通じて利用者や市民のニーズを把握し、その結果を基に施設の運営方針を調整するや広報やマーケティングを強化して、施設の認知度を高めることの意見がありました。

****3. 施設の統廃合と効率化****
施設の効率的な運営のために、重なる機能や目的を整理し、施設の統廃合を図るべきだという意見がありました。具体的には、いくつかの施設の機能をまとめ、一つの拠点として運営することによる経費削減と運営の効率化や施設の統合に応じて改装、バーベキュー施設など自然と融合した施設を残す意見もありました。

****4. 民間と市の協力****
民間と市が協力してまちづくりを行うべきだという意見がありました。市だけでなく、民間事業者等と共同で新たな施設やプロジェクトを推進することで、地域の魅力を高め、持続可能な運営が可能になるいう意見や、民間の資本や専門知識を活用して、効果的な運営を図るべきという意見がありました。